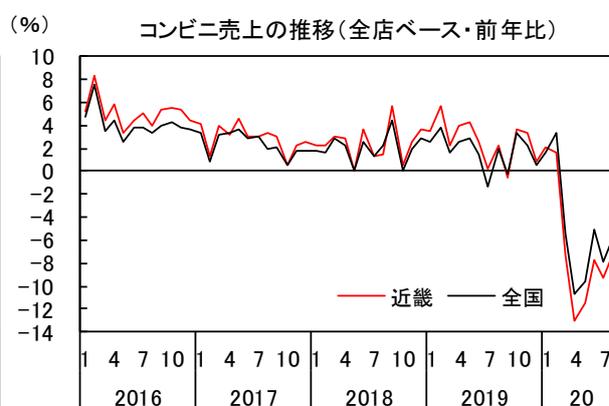


関西の景気トピックス【消費関連（20年8月）】

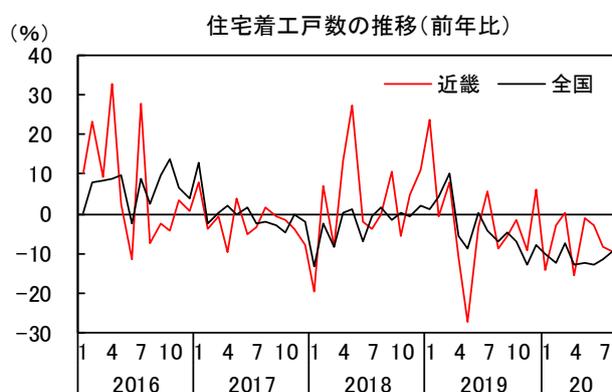
- 20年8月の大型小売店販売状況（経済産業省）は前年比マイナス6.8%と11か月連続の減少となっている。7月以降の新型コロナウイルスの感染拡大により、売上の回復ペースが鈍化している。また猛暑による客足の減少も響く形となった（業態別には、百貨店が21.1%減、スーパーが2.1%増）。
- コンビニ売上（経済産業省）の8月は、全店ベースで前年比マイナス7.0%と、6か月連続で減少した。感染の再拡大は、特に都市部での往來の減少につながっており、都心の店舗を中心に売上の悪化を招く形となった。
- 住宅着工戸数の（国土交通省）8月は、前年比マイナス9.5%と5か月連続の減少となった。特に持家は11か月連続で減少と、需要の停滞が目立っている。
- 毎月勤労統計調査（厚生労働省）でみた賃金動向については、大阪は直近で前年を下回る動きが拡大している。新型コロナウイルスの影響が所得環境の悪化につながっていることから、今後も個人消費は停滞が続くことが懸念される。



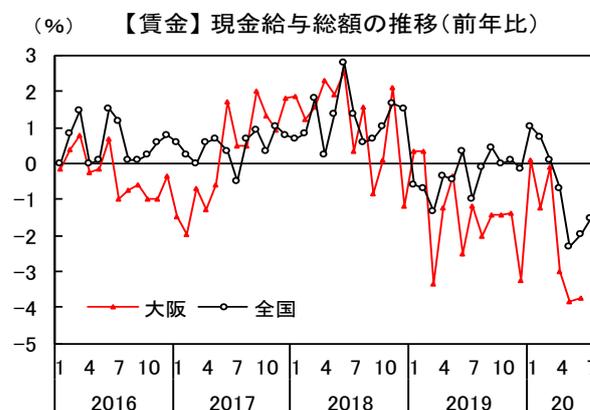
（出所）経済産業省「大型小売店販売状況」



（出所）経済産業省



（出所）国土交通省「建築着工統計」



（出所）厚生労働省「毎月勤労統計調査」